

2005.12.

No.20

ニューズレター

はじめに

「OBI 創立 15 周年を祝して願うこと」

西 満 先生

「起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。」（イザヤ 60：1）

OBI 創立 15 周年おめでとうございます。11 月 21 日に行われた「OBI 創立 15 周年記念の集い」で、羽鳥先生、増田先生をはじめ多くの方々を通して与えられたメッセージやお言葉は、大きなチャレンジでした。小生は、1998 年からこの学院で、旧約聖書を教えるようになりましたので、15 年前のことや、それ以前の歴史は、先生方のことばや資料を通して知るだけです。しかし、小生がこの学院に関係するようになってからも、この学院は経済的に大変困難な時期を経験しました。その中で神様が不思議な方法でこの学院の必要を充たし、さらに新しい方向づけをも示して下さいました。まさに学院の標語どおり「感謝」「感激」「感動」の 3K です。この学院に関係するようになって、OBI は、他の多くの神学教育機関にはない特色をもった神学教育機関であることに気がつきます。それは、信徒に対する聖書教育を、本来の目的にしているということです。21 世紀は「信徒の時代」と言われます。しかし実際には、宣教の多くの部分が、教職中心でなされているのが実情です。その理由の一つは信徒の聖書教育、神学教育が十分ではなかったからではないかと思えます。アメリカではクリスチャン・カレッジや神学校で学んだ方々が多く信徒として教会の内外で活躍しています。しかし日本では神学校は、主に教職者養成機関です。最近、信徒のための聖書教育の重要性を見直す傾向にありますが、まだ充分ではありません。信徒のための神学と聖書教育の役割を担って、15 年前、神が摂理のうちに指導者の心のうちに働いて、設立へと導いて下さったのが、お茶の水聖書学院だと思います。「起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。」とイザヤは記します。

「起きよ。」とは「立ち上がれ。」とも訳せることばです。今までの眠っている状態から「起きよ。」「立ち上がれ。」と言うのです。そして「光を放て。」と言います。なぜなら神に対する無知と罪と悲しみと破滅の象徴である「やみ」が諸国の民をおおっているからです（60：2）。その間は現代の日本をおおっています。イエス様も言われました。「あなたがたは、世界の光です」（マタイ 5：14）。その光はあなた自身の光ではありません。あなたを輝かす光、すなわち「主の栄光があなたの上に輝いて」くださるから、あなたは光を放つことができます。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵とまことに満ちておられた。」（ヨハネ 1：14）。

OBI で聖書を学んだ卒業生たちが、教会で牧師を助け、21 世紀の日本の宣教のために、一つの大きな役割を果たすことを心から願い、期待しています。また母校のために祈り、捧げていく下さる主にある同窓生が多くいらっしゃる事が、OBI の大きな力、誇りであると確信しています。

西 満先生のご紹介： 先生は現在東京基督教大学講師
御茶ノ水聖書学院教師、和泉福音教会名誉牧師です。
OBI では、旧約聖書概論をご担当です。御著「わかりやすい旧約聖書の思想と概論」(上)(中)(下)をテキストにして、聖書の御言を学びます。授業は「わかりやすい」+「たのしい」のが実感です。 写真は授業後の一時



OBI創立15周年記念の集い

— 感謝と展望 —



お茶の水聖書学院創立15周年記念の集い —感謝と展望—

2005.11.21 (月) 11:00～13:30 OCC:8F

増田 誉雄学院長のご挨拶

第1部 感謝礼拝 11:00～12:15

司会 藤原導夫先生 奏楽 齋藤とし子先生

前奏 「たたえまつれ」 J.G.ヴァルター

讚美 讚美歌9番 一同

祈祷 山口勝政先生

挨拶 OBI・これまでの感謝 学院長 増田誉雄先生

報告 OBI・これからの展望 副学院長世良田湧侍先生

独唱 「ああ感謝せん」 G.F.ヘンデル

「永遠の神の都」 S.アダムス 植木朋子先生

メッセージ 名誉学院長 羽鳥明先生

祝辞 山崎製パン(株)社長 飯島延浩

OCC理事長 村上宣道

感謝状贈呈 羽鳥明先生 飯島延浩社長

讚美 讚美歌494番 一同

祝祷 同盟基督・中野教会牧師 石川弘司

後奏 「主なる神汝らをほめたたえん」 J.G.ヴァルター

記念撮影

第2部 立食感謝会 12:15～13:30

司会 藤原導夫先生

祈祷 会食・懇談

二重唱 近藤はるみ先生 遠藤かおる先生

ご来賓祝辞 祈祷 西 満先生

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」

(ピリピ2章13節)

本日はご多忙の中「お茶の水聖書学院創立15周年記念の集い」にご出席下さり心から御礼申し上げます。冒頭のみことばへの深いうなずきをもって今日の日を迎えました。まことに「エベン・エゼルーここまで主が私たちを助けてくださった」(第1サムエル7章12節)の思いでございます。そして、皆様のお祈りとご協力ゆえのOBIであることを覚えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

讚美歌 494 番

わがゆくみち いついかに
なるべきは つゆ知らねど
主はみこころ なしたまわん。
そなえたもう 主のみちを
ふみゆかん ひとすじに。

お茶の水聖書学院創立 15 周年記念会 に参加して

式典は、11月21日午前11時より、賛美と祈りのうちに始まりました。増田誉雄学院長による、これまでの感謝(1991年OCC創立者アイリーン・ウェブスター女史の宣教の重荷を継承する教育の一環として始まり、2001年には新生OBIとして発足しました。)が、新たにされ、これからの展望として、副学院長世良田先生によって、四つのMでまとめられました。

1. MISSION(主の大宣教命令)
2. MEDIA (インターネットによる学び)
3. MAN (人の存在の大切さ。育成・発掘・協力)
4. MASTER PLAN (My Planでなく、主のご計画のうちに一步一步遂行)。特に、2番のOBIネットコースは新しい試みで日本中にOBIの教室を普及させようと開講し、新時代の要望に応えるものです。続いて、名誉学院長羽鳥明先生による「奉仕の動機」と題して、第2コリント5章9～21節からメッセージを頂きました。三つのこと、

1. 主に喜ばれること (9節)。
2. キリストの愛 (14節)
3. キリストの任命を受けた者として先生の御証しを交えたお話にチャレンジを受けました。

これから、OBIがアメリカのBIOLAのように世界的規模の神学校となることを確信している。また、OBIの卒業生が主の働き人として立ち上がっていく大切さを痛感しました。このOBIの将来が日本のキリスト教界に大きな使命を果たしていくと思いました。私達はその使命を確信しつつ主の大宣教命令に従って行きたいと思いました。また、山崎製パン飯島社長から祝辞を賜りました。その中で、「世には素晴らしい人々がたくさんいる。彼らにどのようにして、福音を伝道したらよいか、これは一つの課題である。」と言われました。また、OCC理事長の村上宣道先生よりOBIに対する励ましの言葉がありました。第二部は、立食感謝会となり、久しぶりに先生方、



写真は「奉仕の動機」を第2コリント書よりメッセージの羽鳥先生

同窓生共々歓談の一時を持ちました。この記念会を通して、OBI同窓生の絆が強められ、お互いに協力し合っていくネットワークが築かれつつあると感じました。個人的にも、過去、現在、未来についても思い巡らし個人の歴史の中にも深い感銘を受ける恵みのときでした。約120名の参加者があり、盛況のうちに終わりました。

ルポ：有田 美榮子姉 (8期生)



写真はOBI同窓会草創のメンバー

お茶の水聖書学院 同窓会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル
TEL: 03-3296-4641 FAX: 03-3296-4641
郵便振替: 00180-4-711816 発行者 増田 誉雄

「学び舎より」

辛くとも楽しいヘブル語授業

「フー」というため息とともに、今日もヘブル語の授業が終わりました。授業の終わったこの瞬間の解放感は、何ともいえないものです。思えば、二年前にただ単純に「聖書を原書で読めるようになりたい」との動機からヘブル語入門クラスに入ったのが苦しみの始まりでした。ヘブル語はそんなに単純なものではないところが、先生から「よその神学校でも、ヘブル語は難しく、途中であきらめる人が多い」と聞き、軽い気持ちでクラスに入ったことを反省させられました。それでも途中何度か挫折しそうになりながら、クラスの仲間の頑張る姿に励まされ、気が付けば、ヘブル語中級の後期の授業で学ぶまでに、なっていました。入門クラスから今の中級クラスになるまでに、福井誠先生が丁寧に下さっていますが、入門クラスの最初の授業の時、先生はこう言われました。「この授業の目標は、辞書を引きながら、ヘブル語の旧約聖書が読めるようになることです」。これを聞いたときは、期待に胸が一杯になりました。そして自分が旧約聖書を原文で読んでいる姿を想像し、その時が来るまで頑張ろうと固く決心をしました。しかし、授業を重ねてゆくうちにそのような夢が遠のいて行くような感じがするようになって来ました。授業が終わるたびに皆で、「難しい」、「大変だ」と声を掛け合って、お互いに励めあったり、励まし合ったりするようになりました。苦労しているのは自分だけではないんだと妙に安心し、自らを励ましつつ、何とか続けることが出来ました。そして二年。現在のヘブル語の授業の様子と言いますと、福井先生が最初言われた「辞書を片手にヘブル語の旧約聖書を読む」という目標が見事に？実現しています。創世記を初めから、一節ずつ各人順番に訳して行き、途中文法について先生から説明していただくという形で授業が進められています。自分の番が来たら、まずその節をヘブル語で読み、動詞の使用形を説明し、その後で自分の言葉で訳して行きます。一語一語を辞書で何回も確認をして行きますと、私達の使っている聖書と微妙に訳の違っているところが発見されたり、また神様の素晴らしい御心を改めて確認できたりと、宝物を見つけたようにうれしくなり、次の節に進むのが楽しみになります。記憶力の衰えている高齢の私達、失礼私を忍耐を以て、ここまで教え導いて下さった福井先生には心より感謝いたしております。今や、創世記の三章も終わろうとしています。采渡もまた、日本語的ヘブル語の声が教室に聞こえることでしょう。「ヴァヨメル アドナイ エロヒーム……」。

戸川 偕生 (8期生)

「学び舎より」

臨床牧会学入門を学んで

主の御名を賛美いたします。愈々卒業という最後の年に、堀 肇先生により「臨床牧会学入門」を学ぶ機会が与えられ、主の摂理を覚え感謝しています。2004年の夏のスクーリングに参加し、堀先生の集中講義を受けたときから、更に学びたいと願っていました。「臨床牧会学」と名前は、ちょっと厳めしいですが、「よき隣人」になるための学びです。教会の内にも外にも心傷つき、疲れ、苦しみを抱えている方が多くなっています。また、家庭の中にも様々な問題が生じてきています。悩める隣人の助けになろうとするとき、相手への思いだけでなく、知恵や知識が欠かせません。授業を通して必要な知識が与えられました。また、問題を整理して、具体的な解決方法を学ぶこともできました。現実の問題に圧倒され、どうしたら良いか分からないとき、授業と並行して、解決が与えられました。個人的にも先生の助言を求めたことも何度かあります。学びの中から即実践に知識が生かせる本当に有り難い学びです。今の世の中は、カウンセリングばやり、スピリチュアルカウンセリングなどのタイトルも目にします。心理学アプローチの行き詰りからですが、人間を肉体、心、霊をもつトータルな存在として捉えるなら、心理学的限界は当然のことと納得しました。魂の深奥にある霊において、神様との愛の交わりを回復することが癒しと問題解決の第一歩なのです。嫌われ者で孤独なザーカイの近くに来て下さり、「今日、あなたの家に泊まることにしているから。」と言われたイエス様の愛。放蕩息子の帰りを待ち続け、身代を使い果たし、身も心もボロボロになって帰ってきたにも拘わらず、走り寄って、彼を抱き寄せ、口付けた父の愛。このように神様は無条件の愛を以てどのような人であれ、愛して下さることを先生から繰り返し教えられ、学びました。学びの中にも、神様の愛の大きさに触れ、自らも癒されて行くのを感じました。創造主であられ、救い主またワンダフルカウンセラーなるイエス・キリストにあってこそ、本物のスピリチュアルカウンセリングが許されるとの思いを強くされました。ここに、今の時代が求める教会の働き、使命があり、また魂に届いていく道が与えられているように思いました。未信者の方々だけではなく、クリスチャンも心に辛さを覚えたり、問題に直面して心疲れます。このことさえ益と変えて下さる神様との関係、隣人との関係、そして自分自身との関係を整理して、再構築の機会として希望を見いだしました。願わくは、神様が私をオアシスの木陰として、疲れた人々の息つく所となりゆきますように、また凍てついた心に太陽の温もりを与える者として下さいますように。

阿部 恵子 (OB1生)

「学び舎より」 賛美入門を学んで

主の聖名を讃えます。今秋、植木朋子先生を迎えて、聖書科で賛美を学ぶ。授業は、旧約聖書から賛美の系譜を辿る。イスラエルの賛美のパッションを知る。正にイスラエルの神、主は、「あなたは聖なるお方であり、イスラエルの讃美に住まう。」(詩篇22:3)とされる。そのスピリットを聖書から享ける。次に賛美歌の練習。先立ちで、準備体操。足腰を屈伸。膝の関節が油切れ、軋む。腰が痛い。次は呼吸法。排気からゆっくりと吸気へと腕を挙げたり、降ろしたり。お腹が出っぱっていて、吸気と排気とが逆になる。先生曰く、お相撲さんの悠然とした姿勢をイメージしなさい。富士山のように。これで賛美する私たちに蹲踞の姿勢ができた。それから発声練習。高い音程はついていけない。皆さんが降りてくるのを待つ。低音には付きあえる。先生曰く、声は響きです。搾り出してはダメと。先生、後頭部から、声を手掴にして、前方へ投げ付ける。何回も後ろから前に声を投げ付ける。響きの大切さを学ぶ。また、髪の毛一本も、お肌も細胞一つひとつに命を吹き込む。先生曰く、歌手は身体全体が楽器ですと。かくして、身も心も解れ、全身全霊一つとなってスタート・ダッシュを待つ。授業の始めは、皆さんの愛唱歌を讃美する。皆さんは、それぞれの思いを抱かれ斉唱。後々まで記憶に残ることだろう。愈々、クリスマス賛美の練習。女性は音声が整っているが、男性は種々、女性に圧倒される。そこは、先生曰く、男性は女性をリードして下さいと。何か肩の凝りがとれたよう。しかし、男性には、「雪はつもりて」と「くしき星」2曲とも初めて。ナカナカ、順応しない。音符に囚われたり、文字に気を奪われたり、心落ち着かない。先生から、兵隊さんが歌っているとお叱り。歌のイメージをもっと高めて！揺り籠のように、スーラ、ユーラと。8分音符は、12、33、44と手拍子ポンポン。ほんとに、ほんとに、手取り、足取り。懐かしい、小学校以来の手拍子だ。・・・1950年、昭和25年初夏、私は瀬戸内の小さな港町から中国山地の麓、城下町に転校した。祖父の退職とともに、朝鮮動乱を危惧したものであった。その年の冬の学芸会は、「マッチ売りの少女」を演じた。私はその他大勢で、バック・コーラスにいた。「きよしこの夜」を歌った。何とキレイな歌と感動。夜になると、上空は軍用機が仁川・厚木コースを飛行していた。轟く振動に不安を掻き立てられた。飛行機は警告灯を点滅しながら暗闇に吞まれて行った。「きよしこの夜」は、心の聖夜だった。そうだ！童心に帰って歌えば、いいんだ！半世紀後、今、皆さんと此処に賛美を捧げるべく集っている。皆さんも、それぞれに、また同じ思いをもって集い、賛美しておられる。不思議だ、主の導きを覚える。植木先生から、賛美の基本(心得、姿勢、スピリット)を教わり、感謝。また皆さんと半世紀後、再会！「あなたの神、主は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。」(ゼパニヤ書3:17)

三浦 秀弥(6期生)

写真は15周年祝会・クリスマス祝会



「お知らせ」

★OBI同窓会草創の立役者能勢壽郎兄が12月5日召天されました。今までの御労と常なる祈りに感謝いたします。来年3月でOBI同窓会10周年を前に、寂しい思いです。能勢壽郎兄からの後継としての私たちは任の重さをヒシと受けとめて行きたいとの思いです。ご遺族の上に平安がありますように。

★OBIの伊藤淑美先生の奥様操様が1年余の闘病生活の末、11月7日天に召されました。先生の上に篤き慰めがありますようにお祈りください。

☆先号で予告されていましたが三浦喜代子姉の御著「美しき姉妹たち」が発刊されました。4年ぶりの小説です。内容は、「レアとラケルの物語」「レプタふたつの物語」、聖書の女性たちの一途な神への愛を巡る人生の苦悩と歓喜が物語られ、感動です。キリスト新聞社発行 ¥1260(税込)

☆日程 入学願書締切：3月13日 入学試験：3月20日 卒業式：3月18日 入学式：4月10日

「会計報告」(2005.3～12.20)

献金者御芳名 敬称略、献金日順 脇坂勇 依田和子 清瀬行道 高橋理恵子 原正子 三友庸子 三浦喜代子 窪田淳子 森本馥 杉山礼子 繪鳩彰 松岡常子 三浦秀弥 浪井弘子 森登 黒沢すぎの 糸満ミュキ 増尾善文 増尾邦子 平松庸一 堀口容子 猪狩友行 平松庸一 北村久夫 小林喜久男 西川和子 有田貞一 滝田幸恵 平澤素香子 米田由起子 窪井節子 牧野三恵 黒沢すぎの2 中村良子 中川和代 江藤博久 飯田みか 東利雄 小林直子 三浦秀弥2 染谷多真慧 脇坂勇2 永井みよ子 関口悦子 依田和子2 原正子2 清瀬行道2 安藤良一 能勢壽郎 國松裕子 瀧瀬貴 繪鳩彰2 千田哲子 渡辺英子 国東恵子 平松庸一3 福井ちよ 松岡常子2 三友庸子2 戸川偕生 田中恵子 内田光子 飯島多稼夫 酒井美音子 芳賀功 田中恵子2 佐野謙次 尾原光彦 三浦秀弥3 (延べ69名) 収入: 412,001円 (献金総額412,000円 利息1円) 支出: 466,634円 (広告費100,000円 OBI協力金300,000円 お花料15,000円 通信事務費等51,634円) 繰越金: 83,574円 現在高: 28,941円

献金感謝いたします。皆様の御協力有難うございます。御顧み豊かにありますように、主に在って、祈ります。 会計 三浦秀弥

「交信広場」

3/14 いつもニュースレターお送り頂き、心より感謝致します。出発の為、心よりおいのり申し上げます。依田和子姉

4/6 益々のご発展お祈り申し上げます。三友庸子姉

4/19 聖名を崇めます。復活の主のよろこびを感謝しておりますのに、沢山の献金できません。新年度に向かって中々困難でおゆるし下さいますように、あっちこっち沢山の為め。黒沢すぎの姉

7/12 ニュースレター「会員の便り」欄に、卒業年を記載下さると、お名前とお顔を思い出すことができます。ぜひご配慮下さい。東利雄兄

7/19 御学院で学ばせて頂いた恵みに心より感謝し、御俊の益々のご発展お祈りいたします。三友庸子姉

7/19 7月11～13日、夏季スクーリングに教会員の方(5名)と参加させて頂きました。口々に参加して良かったと言って下さり、感謝でした。戸川偕生兄

7/25 OBIのあたたかい学びの場がますます主にあって祝福されますように、お祈り申し上げます。(献金)遅くなりましたことおわび申し上げます。……ニュースレター嬉しく拝見させて頂いています。依田和子姉

7/26 会報有難うございました。原正子姉

8/17 主の聖名を賛美致します。元気で教会で奉仕しております。お祈りを御礼申し上げます。東京聖書学校(神学校卒業)、霊に燃え、主に仕え、望みを抱いて喜び、艱難に耐え常に祈りなさい。唯々、皆様の御健康と主の祝福をお祈りします。繪鳩彰兄

8/19 ニュースレターいつもありがとうございます。渡辺英子姉

10月上旬 増田誉雄先生へ 木下順子姉

「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。」(ピリピ4:4) 主の聖名を讚美します。いつもお祈りを覚えて下さりありがとうございます。関西聖書神学校での3年間の学びを終え、3月8日に卒業いたしました。3月21日に日本イエス・キリスト教団の総会にて伝道師の任命を受け、3月22日より函館中央教会にてご奉仕させて頂いております。4月17日に教団委員の小菅剛牧師より、任職式をしていただきました。伝道者生涯のみことばとして、ピリピ4:4をいただいております。これからも主が内にいて下さり、くすしみ業を成して下さることを、ただ信じ歩んで行こうと願わされています。今後ともお祈りをご指導をよろしく願いいたします。主にありて。(追伸)先生、お元気でいらっしゃいますか?ごあいさつ状が大変遅くなり、申し訳ありません。遣わされて早6ヶ月となりました。毎週の礼拝と祈禱会のご用のため、よろしくお祈りお願いいたします。(函館中央教会:函館市山の手2丁目25-5)

おわりに

IN CELEBRATION OF

ALL THAT THE LORD HAS DONE FOR US, ALL THAT HE IS TO US, AND ALL THAT HE MEANS TO US, WE GIVE OUR PRAISE AND GLORY TO HIM, AND DEDICATE OURSELVES ANEW TO TRAINING HIS SERVANTS APPROVED BY HIM AT OUR FIFTEENTH ANNIVERSARY. (2TIMOTHY 2:15)

上記の英文は、11月の下旬、研究科の学びに先立って、増田先生から賜ったお言葉です。不躱、小生翻訳させていただきました。(主が私たちのために成して下さってきた全てのこと、主が私たちに臨んで下さる全てのこと、主が私たちに思い図って下さる全てのことをお祝いするために、私たちの15周年記念に際し、私たちは主に讚美と栄光を捧げます。更に、主に嘉せられし働き人たちを鍛練すべく自らを献げます。テモテ第2 2:15) OBI創立15周年記念の感謝が能く顕されています。主に感謝です。厳粛な式典に与り、OBIの使命の重きを覚え、またその一端を担う者として、祝福の馨りを賜り感謝です。この喜びを分かちたく遠き姉妹に紙面にてお届けいたします。巻頭の辭を西満先生から賜りました。力溢れる奨励有難うございます。OBIの重大さ、その使命を揺り動かして下さり感謝です。またお忙しい姉妹に「学び舎より」のレポートをお願いしました。OBIの新しい分野での講義の実際が報告されたものと思います。この春からは、e-Learningが開講されました。OBIの新風カリキュラムのご体験をお薦めいたします。皆様からのご感想等を頂ければ幸いです。今回から紙面を刷新、伴って、「OBIニュースレター」の題辭を森登兄から、式典写真を加茂兄から夫々頂戴しました。ご協力感謝いたします。今回は、私たちOBI同窓会三役、協力一致の下、出来上がりました。おわりに、ご協力頂いた先生方を初め、OBIの姉妹の皆様へ感謝をいたします。

A MERRY CHRISTMAS TO YOU!

2005.12.24

主に栄光